

## 1-10 哲学

### 研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代中世哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学（科学技術倫理／臨床倫理学を含む）などであり、講義や研究演習を通して、原典（英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語に互る）の厳密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。学生の指導にあたっては、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押えた上で、自らの思索を展開することとくに留意している。なお、社会人コースの学生は、社会の現場において抱くようになった問題意識に基づくテーマを選ぶこともできるようにしている。

本専攻分野の特色は、第一に 1922 年（大正 11 年）創設以来の伝統ある学問活動の蓄積である。高橋里美をはじめとして、日本の哲学研究をリーダーする研究者たちが歴代の教員となり、現象学をはじめとして顕著な業績を挙げた研究者を輩出してきた。このような伝統を受け継ぎつつ、哲学研究を国際的な場でさらに推進しようとしている。第二に、以上に加えて近年は、現代社会が抱える諸問題に哲学の視点から向かう試みに意欲的に取り組んでいる点が、特色として挙げられる。このため、倫理学専攻分野と連携しつつ、科学研究費、受託研究費（日本学術振興会 人文・社会科学振興研究事業）を積極的に導入し、一連の研究プロジェクト全体を、「人間の 21 世紀的 Well-Being 研究プロジェクト」として総括して、文学研究科の主要研究プロジェクトの一つとして推進してきた。その後「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））をテーマに、科学技術倫理を中心にしたアクチュアルな課題と取り組み、現在は「科学技術における討議倫理のモデル構築」（科学研究費補助金基盤研究（B））のテーマのもと科学技術者及びその批判者をも交えて「討議倫理」の実践的問題を課題としている。また 2008 年度からは、理学研究科のグローバル COE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に講座として関わり、事業の展開に積極的に協力してきた。さらに本年度採択されたリーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」にも「安全安心に生きる」のユニットに参加している。

## I 組織

### 1 教員数 (2013年9月現在)

教授：1

准教授：3

講師：0

助教：1

教授：座小田豊

准教授：直江清隆、荻原理、原塑

助教：信太光郎

### 2 在学生数 (2013年9月現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
35	0	10	10	0	0

### 3 修了生・卒業生数 (2009～2013年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
09	13	1	2
10	9	1	0
11	10	3	1
12	8	4	2
13	0	0	3
計	40	9	8

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2009～2013年度)

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	2	0	2
10	0	0	0
11	1	0	1
12	2	2	4
13	3	1	4
計	8	1	11

\*2013年度は、9月末までの数字

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

信太光郎、2009年度、『ハイデガー思想における生命論的思考の解明—死すべきものの自由をめぐる—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、

千田芳樹、2009年度、『E・カッシーラーの「文化哲学」研究—神話論的視点から—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

佐藤優子、2011年度、『ハイデガーと「神」の問題—『哲学への寄与』を出発点として—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

佐藤駿、2012年度、『E・フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学—『論理学研究』から『イデー』まで』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

梶尾悠史、2012年度、『フッサール知覚の現象学—意味・超越・真理—』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

小熊正久、2012年度、『フッサール現象学における表象媒体の研究—知覚・想像・画像表象に関して—』（論文博士）

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

直江清隆、2012年度、『価値と技術の現象学』（論文博士）

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志

日笠晴香、2013年度、『意思決定における自律と最善の利益』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・清水哲郎、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

阿部ふく子、2013年度、『ヘーゲル哲学における思弁の生成』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

西岡圭子、2013年度、『メルロ＝ポンティの「教育」の哲学—近代教育学を超えていくための手掛かりを求めて—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・佐藤透、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

城戸淳、2013年度、『理性の深淵——カント超越論的弁証論の研究』（論文博士）

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	3	1	2	3	9
10	5	1	1	4	11
11	6	1	1	1	9
12	2	0	1	0	3
13	4	0	1	0	5
計	20	3	6	8	37

\*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	6	9	11	0	26
10	6	5	7	0	18
11	5	7	5	0	17
12	5	3	2	0	10
13	0	1	3	0	4
計	22	25	28	0	75

\*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

阿部ふく子（訳・解題）、F.W.J.シェリング「F.I.ニートハンマー著『現代の教育教授理論における汎愛主義と人文主義の抗争』への批評」、『知のトポス』、新潟大学大学院現代社会文化研究科「世界の視点をめぐる思想史的研究」プロジェクト編、第4号、pp.79-116、2009年

阿部ふく子「哲学の〈学習〉としての体系——ヘーゲルの教育観と哲学的エンツュクロペディーの関係について——」、久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』

- 所収、理想社、pp.101-117、2010年
- 阿部ふく子「解題：J・G・フィヒテ「シュミット教授によって樹立された体系と知識学との比較」（栗原隆・阿部ふく子訳）、『世界の視点 知のトポス』、新潟大学大学院現代社会文化研究科共同研究プロジェクト「世界の視点をめぐる思想史的研究」新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第5号、2010年
- 阿部ふく子「思弁哲学の公教性—ヘーゲルの通俗哲学批判とその克服」（発表要旨）、『東北哲学会年報』、pp.93-94、2010年
- 阿部ふく子「哲学と人間形成—ニートハンマーとシェリングの教養形成論をめぐって」、『シェリング年報』、日本シェリング協会編、第19号、2011年
- Fukuko ABE, System als Erlernen der Philosophie: Zum Verhältnis zwischen der Hegelschen Erziehungsanschauung und seiner philosophischen Enzyklopädie, in: Logik und Realität, hrsg. v. Ch. Jamme und Y. Kubo, Wilhelm Fink Verlag, München 2011.
- 阿部ふく子「解題：G・W・F・ヘーゲル「アルプス徒歩旅行についての報告」（加藤尚武・田中純夫・阿部ふく子訳）、『世界の視点 知のトポス』、新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第6号、pp.126-131、2011年
- 越後正俊「『論理学研究』におけるカテゴリー的形式の基づけ関係について」、東北哲学会年報、No. 29、p. 65-80、2013年
- 遠藤健樹「歴史・自然・政治—一九三〇年代のカール・レーヴィット」、『東北哲学会年報』（東北哲学会）、第25号、2009年
- 遠藤健樹「「共同存在」と「政治的なもの」—カール・レーヴィットによるシュミット批判の帰趨」、『倫理学年報』（日本倫理学会）、第五十九集、2010年。
- 遠藤健樹「解釈学的な相互承認—レーヴィットにおける共同相互存在論の一帰結」、『思索』第43号、71頁～88頁、2010年。
- 遠藤健樹「解体と伝統—シュトラウスによるハイデガーの解体概念受容について」、『政治哲学』第11号、政治哲学研究会、2011年。
- 梶尾悠史「現象主義を超えて—フッサール現象学における直接知覚の存在論」『現象学年報』（日本現象学会）、第25号、2009年
- 梶尾悠史「知覚と解釈—フッサール現象学における統握理論をめぐって」『東北哲学会年報』（東北哲学会）、第26号、2010年
- 梶尾悠史「苦悩の倫理学—死なないでいることの〈理由〉」『第二十五回暁烏敏賞入選論文』（暁烏敏賞事務局）、2009年
- 梶尾悠史「現象学的内在主義—意味志向と意識の現実」、『現象学年報』、日本現象

- 学会編、No. 28、2012年
- 佐藤 駿「知覚と現実—「理性の現象学」の観点から」『現象学年報』26、pp. 109-116、2010
- 佐藤駿「フッサールと選言主義」『文化』第74巻第3・4号、2011年3月、pp. 21-41.
- 菅原宏道「ヒュームの因果論における実験的推理法と前提事項」、『東北哲学会年報』、第27号、31-47ページ、2011年
- 菅原宏道「ヒュームの人間学における論証」、『文化』、東北大学文学会（編）、第75巻第3,4号、2012年
- 鈴木亮三「死すべきものの仕事」、『どう生き どう死ぬか』竹之内裕文・岡部健の共著所収、弓箭書院、2009年
- 西岡けいこ「まなざしの歴史性——『眼と精神』再読の視座」、東北哲学会年報、No. 29、p. 51-63、2013年
- 二瓶真理子「ポパー、心の哲学への視点」、『ポパー・レター：日本ポパー哲学研究会会報』（日本ポパー哲学研究会）、VOL.20-No.2、2009年
- 二瓶真理子「科学的事実はつくられているのか？—実験室科学における「社会的構成」と「実物的安定性」—」、『文化』、東北大学文学会編、第73巻第3・4号、pp. 361-343、2010
- 二瓶真理子「書評：Agassi & Meidan, Philosophy from A Skeptical Perspective」、『批判的合理主義研究』（日本ポパー哲学研究会編）、Vol. 2, No. 1、33-37、2010
- 二瓶真理子、直江清隆「書評 デービス・ベアード著、松浦俊輔訳『もののかたちをした知識-実験機器の哲学』」『科学哲学』43-2号、2010、p.111-115
- 日笠晴香「最期の選択 だれが、なにを、どうやって決めるのか」、『どう生き どう死ぬか』竹之内裕文・岡部健の共著所収、弓箭書院、2009年。
- 日笠晴香 「『最期の選択』をどう考えるか」『東北大学臨床死生学研究会研究報告』（東北大学臨床死生学研究会）第1号、2010年、7-16頁
- 藤尾靖彦「幸福と恩寵—カント実践哲学における幸福主義批判の射程」、『東北哲学会年報』25号、2009年
- 松丸啓子「〈不安〉と「不安障害」、中山剛史・信原幸弘編著『精神医学と哲学の出会い』（玉川大学出版部）所収、2013年
- 嶺岸佑亮「ヘーゲル論理学における概念の自己生成と定立について」、『東北哲学会年報』、東北哲学会、No.28、pp77-91、2012年
- 嶺岸佑亮「概念の主体性における個と普遍の本質について—ヘーゲル論理学における「概念の人格性」をもとにして—」、『ヘーゲル哲学研究』、こぶし書

- 房、vol.18、pp.128-139、2012年
- 矢口正史『カントにおける認識の限界性と神の現存在—ルソーの思想からの検討』、東北哲学会年報、No. 27、49頁～62頁、2011年
- 山下哲朗 「カテゴリー的直観とアプリアリな全体性—ハイデガーによるカテゴリー的直観の領得をめぐって」、『フッサール研究』（フッサール研究会）、第8号、2010年
- 山下哲朗 「ロゴスと真理—ハイデガーのロゴス論における真理概念の規定」、『現象学年報』、日本現象学会編、第27号、2011年
- 吉田哲也 「フレーゲにおける述語—不飽和性と述語の意義」（要旨）、『東北哲学会年報』No.29、2013年、p.143-144

## (2) 口頭発表

- 阿部ふく子 「ヘーゲルのアルプス紀行について」、科研費共同研究公開研究会（課題番号 20320003 「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」）、於・新潟大学、2009年8月
- 阿部ふく子 「思弁哲学の公教性—ヘーゲルの通俗哲学批判とその克服」、東北哲学会第59回大会、於・新潟大学、2009年10月
- Fukuko ABE, “A study of the idea of systematic knowledge: On the relation between nature and spirit in the organizational view on nature”, The 2nd International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, no.73, in Tohoku University, Sendai, Japan, February 18-19, 2010. (ポスター発表)
- 阿部ふく子 「哲学と人間形成—ニートハンマー・シェリング・ヘーゲルの教養形成論をめぐって」、日本シェリング協会第19回大会、於・神奈川大学、2010年7月
- 遠藤健樹 「解釈学的な相互承認—レーヴィットにおける共同相互存在論の一掃結」、東北大学哲学研究会『思索』例会、2010年6月。
- 遠藤健樹 「解体と伝統—シュトラウスによるハイデガーの解体概念受容について」、第18回政治哲学研究会、於・札幌大学、2011年9月。
- 越後正俊 「明証概念の帰趨 —『論理学研究』から『イデーニI』へ」、フッサール研究会、関西大学飛鳥文化研究所、2010年3月27日
- ECHIGO Masatoshi, “Prolegomena revisited” The 4rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy” ,

- Tohoku University (Sendai), Feb 2012.
- ECHIGO Masatoshi, “Formal Ontology in “Logical Investigations” ”, the 5th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), March 2013.
- 越後正俊 『論理学研究』におけるカテゴリー的形式」、東北哲学会第 62 回大会、於 東北大学、2012 年 10 月
- 梶尾悠史 「知覚と解釈 - フッサール現象学における統握理論をめぐって」 東北哲学会第 59 回大会、2009 年 10 月
- 梶尾悠史 「苦悩の倫理学—死なないでいることの〈理由〉」 現象学を語る会、2009 年 12 月
- 梶尾悠史 「現象学と外在主義—意味志向の超越論的な文脈性」 岩手哲学会第 44 回大会、2010 年 7 月
- 梶尾悠史 「真理と明証——フッサール現象学の真理論——」 第 13 回北日本哲学研究会、北海道大学、2011 年 1 月
- Kajio Yushi, “Truth and Evidence: A Study of Husserl’s Theory of Truth”, The 3rd GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.
- 梶尾悠史 「現象学的内在主義—意味志向と意識の現実」、日本現象学会第 33 回大会、於・立命館大学、2011 年 11 月
- KAJIO Yushi “On the Intentionality in Artistic Activity”, 6th Symposia Phaenomenologica Asiatica: Master Class in Phenomenology for Asian Scholars 2012, The Chinese University of Hong Kong (Hong Kong), Aug 2012
- 佐藤 駿 「知覚と現実--「理性の現象学」の観点から」 日本現象学会第 31 回大会、人間環境大学、2009 年 11 月
- 佐藤駿 「フッサールと選言主義—現象学における知覚経験の理論について」 第 12 回北日本哲学研究会、東北大学、2010 年 1 月
- 佐藤駿 「フッサールにおける超越論的観念論と形而上学」 日本現象学会第 32 回大会ワークショップ「フッサールの超越論的観念論再考」2010 年 11 月、東京大学
- Sato Shun, “The Faces of Perceptual Object”, The 3rd GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

- 鹿野祐介「人の同一性における重複の問題と数的同一説」、東北大学哲学研究会(『思索』発表会)、於東北大学、2013年6月
- 菅原宏道「ヒュームの経験論と実験的推理法 (“Hume’s empiricism and the experimental method of reasoning”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第2回国際シンポジウム、2010年2月18-19日、仙台、日本
- 菅原宏道「ヒュームの因果論における実験的推理法と前提事項」東北哲学会第60回大会、2010年10月23-24日、仙台(東北大学)、日本
- 菅原宏道「ヒュームにおける「観念の関係」の分析性 (“Hume on Analyticity on ‘Relations of Ideas’”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第3回国際シンポジウム、日本、2011年2月17-19日、仙台(東北大学)、日本
- SUGAWARA Hiromichi, “Hume on Logic and Demonstration” (ポスター発表), The 4th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), February 2012.
- SUGAWARA Hiromichi, “Hume’s Eclectic Method on Logic” The 5th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), March 2013.
- 鈴木亮三「意識の変容と感情」、日本ヘーゲル学会第9回研究大会、東北大学、2009年6月。
- 鈴木亮三「ヘーゲルにおける感情と精神の問題」、実存思想協会第25回大会、学習院大学、2009年7月。
- SUZUKI Ryozo, The Finiteness of Human Beings and the Role of Technology, The 2nd GCOE International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19, 2010.
- 西岡けいこ「メルロ＝ポンティ絵画論における可能的鑑賞者」日本現象学会第31回大会、人間環境大学、2009年11月
- 西岡けいこ「まなざしの歴史性——可能的鑑賞者の観点からの『目と精神』再読」、東北哲学会第62回大会、於東北大学、2012年10月
- 二瓶真理子「ポパー3世界説再考」、科学基礎論学会2009年度総会、2009年6月
- Mariko Nihei, “Epistemic deference and Transmission of Knowledge”, P-76, The 2nd GCOE International Symposium, Tohoku University, Sendai, Japan, (February18-19, 2010)

Mariko Nihei, “The Distinction between Social and Epistemic Values in Scientific Inquiry”, The 3rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

NIHEI mariko, “Rethinking the Duhem-Quine these: the gap between material-experimental holism and semantic-theoretical holism”, The 5th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), March 2013.

日笠晴香「認知症患者の意思決定をどう考えるか——患者の〈自律〉と脳神経科学」、名古屋哲学フォーラム「脳神経科学の哲学」、南山大学、2009年9月。

Hikasa Haruka, Medical technology and surrogate decision-making, The 2nd GCOE International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19, 2010.

日笠晴香「最期の過ごし方についての事前の意思表示——リビング・ウィルをどう考えるか」 介護者応援ネットワークみやぎ主催「介護と看取りのしゃべり場」(於 仙台市戦災復興記念館)、2010年6月13日。

日笠晴香「事前指示の有効性と最善の利益」臨床死生学・臨床倫理学研究会(於 東京大学)、2010年6月24日。

日笠晴香「リビング・ウィルをどう考えるか——終末期における事前意思表示と最善の利益をめぐって」東北多文化アカデミー主催「多文化講座 介護と看取りのセミナー」(於 財団法人東北多文化アカデミー)、2011年2月19日。

日笠晴香「誰が、何を、どうやって決めるのか——認知症の場合の事前指示」〈ケア〉を考える会主催「高齢社会における認知症のターミナルを考える」(於 大阪大学)、2011年8月21日。

Hikasa Haruka, “Autonomous decision-making and informed consent”, The 4rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2012.

藤尾靖彦「「幸福に相応しい」ということと恩寵」—カントにおける最高善の可能性を巡って」、日本倫理学会第60回大会、南山大学(名古屋)、2009年10月

FUJIO Yasuhiko, ” Risk, uncertainty and the precautionary principle: How to deal with scientific uncertainty?”, The 2nd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), February 2010.

FUJIO Yasuhiko, “An inquiry into the ethical significance of the precautionary principle: How to make decisions under uncertainty”, The 3rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

藤尾靖彦「最高善と永遠平和—カント実践哲学における最高善の理念の統一的理解を求めて」日本哲学会第70回大会、2011年5月14日、東京大学

藤尾靖彦「リスボン地震とカント—自然における人間の地位をめぐって」日本カント協会第36回大会、2011年11月12日、首都大学東京

藤尾靖彦「リスク、不確実性、予防原則—仮想的回顧の構想による予防原則の倫理的意義—」日本倫理学会第62回大会、2011年10月1日、富山大学

FUJIO Yasuhiko, “The rationality of the Precautionary principle: making the precautionary principle more applicable”, The 4rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2012.

松丸啓子「ヤスパースの精神病理学の哲学」（仮題）、  
日本ヤスパース協会第30回大会・シンポジウム、2013年12月

嶺岸佑亮「ヘーゲル論理学における概念の自己生成と定立について」、東北哲学会第61回大会、於弘前大学、2011年10月

MINEGISHI Yuusuke, “The problem of the relationship between individuality and universality in Hegel’s philosophy”, The 4rd GCOE International Symposium ” Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2012.

嶺岸佑亮「ヘーゲル哲学における知の主体性と本質について —本質の映現をもとにして—」、『日本ヘーゲル学会』、横浜、2012年12月

矢口正史「カントの「世界の現存在の究極目的論」が意味するもの」、東北哲学会第59回大会、2009年10月

矢口正史「カントにおける認識の限界性と神の現存在—ルソーの思想からの検討」、東北哲学会 第60回大会、2010年10月

矢口正史「カントの批判期における倫理神学の構築——倫理神学の構築による< 道徳法則の尊厳性>の提示——」日本カント協会第36回学会 於・首都大学東京 2011年11月

矢口正史「自然概念と自由概念の間における深淵—『判断力批判』第一部「美感的判断力の批判」の神学的な意義」、カント研究会、於法政大学 2012年7月

矢口正史「カントにおける主観的合目的性と修辞学-自然概念から自由概念への移行をめぐる」、東北大学哲学研究会（『思索』発表会）、於東北大学、2013年6月

YAMASHITA Tetsuro, “The ontological genesis and structure of the theoretical attitude”, The 3rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

吉田哲也「フレーゲにおける思想と判断」第14回北日本哲学研究会、東北大学、2012年1月

吉田哲也「フレーゲにおける述語」、東北哲学会第62回大会、於東北大学、2012年10月

YOSHIDA Tetsuya, “Frege on Unsaturatedness” The 5th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), March 2013.

吉田哲也「フレーゲにおける思想の構造」、東北大学哲学研究会（『思索』発表会）、於東北大学、2013年6月

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

梶尾悠史 石川県白山市 暁烏敏賞 2009年11月

山田圭一 日本倫理学会 和辻賞 2010年11月

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2007～2009年度 DC1採用 1名

2010年度 DC2採用 1名

2012～2013年度 DC2採用 2名

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

年度	学部	大学院	計
09	1	0	1
10	1	0	1
11	0	0	0
12	0	0	0

13	0	0	0
計	2	0	2

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	2	0	2
10	2	0	2
11	2	0	2
12	2	0	2
13	2	0	2
計	10	0	10

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	1	1
10	0	0	0
11	0	0	0
12	2	1	3
13	0	0	0
計	2	2	4

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

千葉 胤久	北海道教育大学旭川校講師	2004年度
山本 史華	東北大学薬学研究科 COE 助手	2004年度
竹之内 裕文	東北大学文学研究科助手	2005年度
菅沼 聡	東北大学文学研究科助手	2006年度
竹之内 裕文	静岡大学農学部助教授	2006年度
張 政遠	香港中文大学講師	2007年度
山本 史華	東京都市大学准教授	2008年度
菅沼 聡	北海道教育大学函館校准教授	2008年度
齋藤 直樹	東北大学文学研究科助教	2008年度
齋藤 直樹	盛岡大学文学部准教授	2009年度
伊藤 周史	東北大学文学研究科助教	2010年度

山田 圭一 山形大学人文学部准教授 2010年度  
井頭 昌彦 一橋大学准教授 2011年度  
千田芳樹 一関高等工業専門学校 2011年度  
小笠原史樹 福岡大学人文学部准教授 2012年度  
山田 圭一 千葉大学文学部准教授 2010年度  
信太 光郎 東北大学文学研究科助教 2013年度  
伊藤 周史 東北大学リーディング大学院助教 2013年度

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2012年度 出版社 1名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

アンドリュー・フィーンバーク (サイモン・フレーザー大学教授、カナディアン・リサーチチェア) 2009年3月  
ラングドン・ウィナー (ニューヨーク州 レンセラー・ポリテクニク・インスティテュート教授) 2009年3月  
クラウス・ヘルト (ドイツ ヴッパタール大学名誉教授) 2009年11月  
ジェナン・イスマエル (アリゾナ州、インディアナ大学准教授) 2010年2月  
張政遠 (香港中文大学) 2010年7月  
林永強 (香港教育学院) 2011年2月  
苑挙正 (台湾大学) 2011年2月  
張政遠 (香港中文大学) 2011年2月  
ジョ ヴァンニ・フェラーリ (カリフォルニア大学バークレイ校教授) 2010年8月  
スザヌ・オブドルジャレク (クレアント・マッケナ・カレッジアシスタント・プロフェッサー) 2010年8月  
ピーター・クロース (デルフト工科大学) 2012年2月  
ルカ・デル・フラータ (デルフト工科大学) 2012年2月  
ウルリッヒ・シュタインフォルト (ハンブルク大学、ビルケント大学) 2012年6月

ジョヴァンニ・フェラーリ（カリフォルニア大学バークレイ校教授）2012年5月

グンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学哲学教授）2012年3月

オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院）2012年3月

張政遠（香港中文大学）2012年3月

林永強（香港教育学院）2012年3月

遊佐道子（西ワシントン大学）2012年3月

潘文慧（香港教育学院）2012年3月

アンドリュー・スターリング（サセックス大学SPRU）

八木沢敬（カリフォルニア大学ノースリッジ校教授）2012年7月

ピーター・マクレラン（オーストラリアNSW州最高裁英米法首席判事）、2012年8月

ドロテ・ルグラン（フランス国立科学研究センター（CNRS）研究員）2013年8月

## 10 刊行物

『思索』（東北大学哲学研究会）年刊

『モラリア』（東北大学倫理学研究会）年刊

『東北哲学会年報』（東北哲学会）年刊

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度 第1回国際シンポジウム 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」3月5日～7日

2009年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「ハーバーマス討議倫理とホネット承認論の形成と対比」8月1日

2009年度 公開講演会 Kraus Held “Idealisierung Als Schicksal Europas”  
11月3日

2009年度 KNS 研究会 「ヘーゲルの様相論をめぐって—偶然性と必然性の相即—」（高山）12月16日

2009年度 公開講演会 「「生命倫理」について考える—命は誰のものか」（香川）  
1月22日

2009年度 第一回セミナー「歴史のなかの科学と哲学」東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」連携企画「連続セミナー：

- 社会のなかの科学の諸相」 1月23日
- 2009年度 第2回国際シンポジウム 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月18日～19日
- 2009年度 公開ワークショップ J. Ismael “On Being of One Mind” 2月20日
- 2009年度 第二回セミナー「巨大科学と科学コミュニケーション」 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」連携企画「連続セミナー：社会のなかの科学の諸相」 2月27日
- 2009年度 KNS 研究会 「自覚と自己代表的体系」(伊藤邦武) 7月22日
- 2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話 I」 7月17日、18日
- 2010年度 科学研究費基盤C「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」公開シンポ 8月10日
- 2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話 II」 10月3日
- 2010年度 学会 東北哲学会 第62回大会 2012年10月23日、24日
- 2010年度 第3回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月17日～18日、公開講演会 2月19日  
苑拳正氏 (台湾大学) For or Against Scientific Realism: E. McMullin, B. van Fraassen and J. Ladyman  
林永強氏 (香港教育学院) Hermeneutics of “between” : on Watsuji Tetsurō’s Fūdo  
張政遠氏 (香港中文大学) Modernising Japan: A philosophical reflection on “Japanese technology”
- 2011年度 KNS研究会 「プラトンにおけるアイデア認識は、直知によるのか？」(金山) 7月13日
- 2011年度 「カフェ・シリーズ “震災を忘れず、忘れられないために” 第1回哲学者に聞く」(講師：野家啓一、ファシリテータ：長神風二) 7月27日
- 2011年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会  
「原子力工学分野におけるSTS的コミュニケーションの可能性」(神里達博)  
「原子力についての対話とは」(直江清隆)  
「対話フォーラムにおける公正さについての一考察」(荻原理)

2011年度 第1回自然主義研究会 講演「自然主義の体系化プログラムとしての自然種の理論」(植原亮)、合評会 井頭昌彦著『多元論的自然主義の可能性』をめぐって(井頭昌彦、佐藤駿、成瀬尚志、植原亮) 2012年1月7日

2011年度 「カフェ・シリーズ “震災を忘れず、忘れられないために” 第2回地震学者に聞く——期待と予測、反省と次をめぐって」(講師：瀨瀬一起、ファシリテータ：長神風二) 1月12日

2011年度 「カフェ・シリーズ “震災を忘れず、忘れられないために” 第3回倫理学者に聞く 傍らで暮らすこと——原子力発電所事故と倫理」(講師：本田康二郎、ファシリテータ：長神風二) 2月23日

2011年度 第4回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月20日～22日、公開講演会 2月21日  
Peter Kroes (Delft University of Technology)

“The creation of physical phenomena and of technical artefacts”

Shigeyuki Aoki (University of Aizu)

“Philosophy of Science Useful for Scientists?”

Luca del Frate (Delft University of Technology)

“Failure of engineering artefacts: a life cycle approach”

2011年度 技術の哲学ワークショップ (Workshop on Philosophy of Technology)、  
2月22日

Peter Kroes 氏 (Delft University of Technology)

“Engineering and the dual nature of technical artefacts”

村田純一氏 (立正大学)

“The question concerning technology: What should we learn from the accident of the nuclear power station in Fukushima?”

直江清隆氏 (東北大学)

“Technological mediation and artefacts”

特定質問者：金光秀和 (金沢工業大学)、鈴木俊洋 (上智大学)

2011年度 国際シンポジウム：大震災と価値の創生 (International Conference: Disaster and the Creation of Value System)

3月9日 基調講演：オギュスタン・ベルク／特別講演：竹内整一／一般発表：張政遠、林永強

3月10日 一般発表：遊佐道子、ハンス・ペーターリーダーバッハ、潘文慧、

直江清隆、田口茂／特別講演：鈴木岩弓／対談：野家啓一、川本隆史  
／ポスター発表

2011年度 講演会 3月23日

グンター・ゲバウアー (Gunter Gebauer) (ベルリン自由大学哲学教授)

Aspect-seeing. On the creativity of human language (アスペクト視：  
人間の言語における創造性について)

2011年度 大震災と価値の創生 (International Conference: Disaster and the  
Creation of Value System) 東北大学大学院文学研究科・香港教育学院主催 東  
北大学、2012年3月9日

2012年度 第36回フッセル・アーベント、講師：ウルリッヒ・シュタインフォ  
ルト (ハンブルク大学、ビルケント大学) "Remarks on Wittgensteinian  
contributions to the understanding of mental phenomena". 6月2日

2012年度 現代哲学研究会開催 (講師：八木沢敬、山田圭一)

2012年度 GCOEセミナー リスク論に関するセミナー

Andrew Stirling教授 (サセックス大学SPRU)

Ambiguous Evidence: implications of uncertainty for science policy  
and expert evidence

Peter McClellan オーストラリアNSW州最高裁英米法首席判事 (Supreme  
Court of New South Wales)

Concurrent evidence - contemporary methods with experts.

東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」oyobi  
科研費基盤(B), 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用  
倫理学的研究」 2012年8月28日

2012年度 研究会 「自然主義とハイデガー1」 合評会 信太光郎著『死すべき  
ものの自由——ハイデガーの生命の思想』をめぐって (信太光郎、齋藤元  
紀、池田準、山下哲郎)、池田喬著『ハイデガー 存在と行為』をめぐって  
(池田喬、信太光郎、原塑、齋藤元紀) 2012年9月17日

2012年度 学会 東北哲学会 第62回大会 2012年10月20日、21日

2012年度 学会 日本現象学会 第34回研究大会 2012年11月17日、18日

2013年度 第37回フッセル・アーベント、5月25日、講師：齋藤元紀氏 (高  
千穂大学人間科学部教授) 「喪われた世界への回帰——現存在の形而上学  
における超越論的現象学の転回とその帰趨」

2013年度 研究会 「自然主義とハイデガー2」、合評会 齋藤元紀著『存在の解

积学—ハイデガー『存在と時間』の構造・転回・反復』（池田喬、信太光郎、山下哲郎）、5月26日

2013年度 第2回自然主義研究会：ギャラガー&ザハヴィ『現象学的な心』合評会（植村玄輝、原塑、吉田正俊）（一橋大学にて実施）

2013年度 Dorothee Legrand 連続講演会 The Subjected Body（2013年8月22日、23日、27日、28日）

## 1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009年度 第33回フッセル・アーベント開催（講師：村上靖彦）

2010年度 第34回フッセル・アーベント開催（講師：田口茂）

2011年度 第35回フッセル・アーベント開催（講師：竹内整一）

2012年度 第36回フッセル・アーベント開催（講師：ウルリッヒ・シュタインフォルト）

2013年度 第37回フッセル・アーベント開催（講師：齋藤元紀）

## 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野は、西洋哲学の文献研究を核としながら、現代の状況に対応すべき様々な領域での研究・教育活動を推し進めてきた。教員は、座小田豊教授、直江清隆、荻原理、原塑の3名の准教授と助教の信太光郎である。12年度末をもって野家啓一教授（08～11年は本学理事と併任）が定年となり、それ以前からの欠員もあって、教員の補充が急がれるところである。

研究面では、倫理学専攻分野と連携し哲学講座として、現象学を中心とする「フッセルアーベント」や夏冬の公開講演などを恒例の行事として毎年開催し、内外の研究者と交流を図ってきている。こうした伝統的な研究活動に加え、ここ10年間は「人間の21世紀的 Well-being 研究プロジェクト」として、科学研究費補助金や人文社会科学振興プロジェクト研究活動を行ってきた。最近では、社会学、地理学、農業経済学、科学コミュニケーション論などの専門家と共同で、「科学技術における討議倫理のモデル構築」「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」といった研究を継続的に行い、順調に成果を上げてきている。また、本学理学研究科のグローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に積極的に参加し、文理の垣根を越えた学際的な研究活動をすると同時に、国際的なシンポジウムやセミナーの開催などを通じて、より国際的な場での活躍へ向けた活動を展開してきた。さらに、研究成果の社会的還元についても一定の成果を挙げてきているが、この点については今後さら

に展開する可能性がある。

教育活動としては、学部教育では、とりわけ、古典的なテキストをていねいに読み、論議することを通じて、問題意識をもって自ら課題を設定し、自分の考えを論理的に展開できる能力の養成することを目標にしている。年度によりいくぶん多寡はあるが、学部学生同士の、あるいは学部学生と大学院生の読書会もよく開かれている。

大学院生については恒常的に発表の場を設け、大学院生相互の討論の機会をもたせることにより、文献読解と同時に、哲学的なディスカッションの能力を育成することを目指してきた。また、博士後期課程の学生については、従来から『思索』（査読つき）、『モラリア』、『東北哲学会年報』（査読つき）など投稿する機会を数多く設けてきたが、上記グローバルCOEの活動を通じ、英語での学会発表や国内学会での発表や参加が増加した。今後、プログラムの終了に伴い、この傾向をいかにして維持するかは課題である。昨年度から、リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」にも「安心安全に生きる」のユニットに参加しているが、こうした場の活用もその一つの候補となり得よう。博士の学位授与は毎年2名程度であり、比較的順調に推移している。また、日本学術振興会特別研究員も恒常的に出している。ただ、学位取得までの年限が長い傾向があることや、博士後期課程への進学者が近年やや減少気味であることに対しては、指導を強化して改善を図る余地があると考えられる。大学院修了後の就職であるが、博士後期課程の学生については毎年1～3名が研究職に就いており、全国的に哲学分野の就職が厳しい状況になってきているなかで、かなり健闘していると言える。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

野家啓一「生態学的ニヒリズムの行方」、『大航海』第71号、新書館、pp.122～129、  
2009年7月

野家啓一「科学哲学者としての西田幾多郎」、『西田哲学会年報』第6号、西田哲学会、pp.1～17、2009年7月

野家啓一「自責と自恃のあいだ—思想詩人としての辻井喬一」、『現代詩手帖』第52巻第7号、思潮社、pp.60～62、2009年7月

Noe Keiichi “Nishida Kitaro as Philosopher of Science”, *Facing the 21<sup>st</sup> Century*, (eds.)  
Lam Wing-keung and Cheung Ching-yuen, Nanzan Institute for Religion and Culture,

- pp.119-126, August 2009.
- 野家啓一「ノーベル賞の＜反時代的＞意義」、『學鐙』秋号、丸善、pp.6～9、  
2009年9月
- 野家啓一「ガリレオに対する二度目の断罪」、『現代思想』第37巻12号、青土社、  
pp.60～64、2009年9月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程—ベルクソンとの対比を軸に」、『哲学  
雑誌』第124巻第796号、哲学会（編）、有斐閣刊、pp.83～100、2009年10  
月
- 野家啓一「物語り論（ナラトロジー）の射程」、『経営思想研究への討究—学問の  
新しい形—』、村田晴夫・吉原正彦（編）、文眞堂、pp.3～30、2010年4月
- 野家啓一「科学哲学における事実と理論」、『要件事実論と基礎法学』、伊藤滋夫（編）、  
日本評論社、pp.261～305、2010年7月
- 野家啓一「主観と客観のあいだ」、『認識と運動における主体性の数理脳科学』、高  
等研報告書0905、国際高等研究所、pp.82～114、2010年8月
- 野家啓一「科学・形而上学・物語り—ホワイトヘッド『科学と近代世界』再読—」、  
『プロセス思想』第14号、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、pp.9～30、  
2010年9月
- 野家啓一「覚醒倫理への道—今村仁司『親鸞と学的精神』をめぐって—」、『モラ  
リア』第17号、東北大学倫理学研究会、pp.1～22、2010年10月
- 野家啓一「＜場所＞と＜あいだ＞：知の統合への哲学的アプローチ」、『横幹』Vol.4  
No.2、横断型基幹科学技術研究団体連合、pp.81～88、2010年10月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程」、『哲学雑誌』第124巻第796号、哲  
学会編、pp.83～100、2010年10月
- 野家啓一「哲学とは何か—科学と哲学のあいだ—」、『日本の哲学』第11号、日本  
哲学史フォーラム編、pp.8～22、2010年12月
- 野家啓一「21世紀の科学と哲学」、社会技術研究開発センター（編）『科学技術  
と知の精神文化Ⅱ』丸善プラネット、pp.74～87、2011年3月
- 野家啓一「日本語で哲学するということ—坂部恵の詩と哲学」、別冊水声通信『坂  
部恵—精神史の水脈を読む』水声社、pp.127～142、2011年6月
- 野家啓一「大震災とリスク社会」、『學鐙』第108巻第2号、丸善、pp.26～29、2011  
年9月
- 野家啓一「＜質的空間＞の復権」、『日本オフィス学会誌』第3巻第2号、日本オ  
フィス学会、pp.4～6、2011年10月

- 野家啓一「見るものから働くものへ—黒田哲学と大森哲学—」、『哲学雑誌』第126巻第798号、有斐閣、pp.45~63、2011年11月
- 野家啓一「〈今を生きる〉ということ」、座小田豊・尾崎彰宏（編）『人間として』東北大学出版会、pp.3~15、2012年3月
- Keiichi Noe, “Hermeneutic Problems in the Philosophy of Science”, in *De l’hermeneutique philosophique a l’hermeneutique du texte*, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp.11~18, Mar. 2012.
- 野家啓一「〈実りある不一致〉のために」、『学術の動向』第17巻第5号、日本学術会議、pp. 46~50、2012年5月
- 野家啓一「〈歴史の物語り論〉への批判と反批判」、『立正大学人文科学研究所年報』、別冊第18号、立正大学人文科学研究所、pp.61~70、2012年9月
- Keiichi Noe, “The Great Earthquake Disaster and Japanese View of Nature”, *Proceedings of the International Conference: Japanese Philosophy in the East Asian Perspective*, Institute for the Advanced Studies in Humanities and Social Sciences, Taiwan National University, pp.1~9、Sept. 2012.
- 野家啓一「〈歴史の物語り論〉のための弁明」、『思索』第45号、2012年10月
- 野家啓一「物語る自己/物語られる自己」、『〈自己〉と〈他者〉』（木村敏・野家啓一監修）河合文化教育研究所、2013年1月
- 野家啓一「科学技術の受容と日本文化の特質」、社会技術研究開発センター（編）『科学技術と知の精神文化 IV』丸善プラネット、2013年1月
- 野家啓一「iPS細胞と生命倫理」、『学術の動向』第18巻第2号、2013年2月
- 座小田豊 「近代哲学における「神」概念の行方——「合理性」概念の哲学史的理解のために——」科学研究費補助金基盤研究（A）「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（研究代表者 野家啓一）成果報告書 2009年3月、14-40
- 座小田豊 「「神を認識する」とはどのようなことか——」（『シェリング年報』日本シェリング協会、第17号、2009年9月）26-37
- 座小田豊 「ヘーゲル哲学における神の思想」（『フィロソフィア・イワテ』岩手哲学会、第42号、2010年11月）37-50
- 座小田豊 「共有知としての「良心」についての一考察——「良心」は誰のものか？」（栗原隆編『共感と感応』東北大学出版会、2011年4月）77-103頁
- 座小田豊 「「媒語」としての精神の可能性について」（『ヘーゲル哲学研究』

- 日本ヘーゲル学会編、2011年12月) 61-65頁
- 座小田豊 「「人間として」問いかけること」(『今を生きる——東日本大震災から明日へ!第1巻人間として』(座小田・尾崎編、東北大学出版会)2012年3月、iii～xxvi頁
- 座小田豊 「精神の生活-「喪われた者たち」の「記憶」と「ふるさと」の根源的な力について-」同上
- 座小田豊 「共通知としての「良心」——その始まりと神の問題——」(栗原隆編『世界の感覚と生の気分』ナカニシヤ出版、2012年3月)66-85頁
- 直江清隆「Brain-Machine Interface から見る生命という価値」高橋隆雄、糸和彦編『生命という価値 その本質を問う』九州大学出版会、2009年4月、p.128-146。
- 直江清隆「科学技術の合理性と組織における倫理」(『科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(成果報告書)』、84-100頁)2009年4月
- 直江清隆「創造と受容(2)」『思索』第42号、2009年10月、p.1-19。
- 直江清隆「技術という媒体」(『科学研究費補助金基盤研究(C)「メディア哲学の構築-画像の役割の検討を中心として」研究成果報告書』、41-47頁)2010年3月
- 直江清隆『薬学生のための医療倫理』松島哲久、盛永審一郎編、丸善出版、2010年4月。
- 直江清隆「高橋里美の包弁証法」『ヘーゲル研究』2010年12月、p.98-105。
- 直江清隆「レーヴィット再論のために」『東北哲学会年報』27号、p.63-77、2011年3月
- 直江清隆「技術者倫理から技術の倫理へ」『技術倫理と社会』第6号、2011年4月、p.105-115。
- 直江清隆「人工物と知識」『思索』第44号、2011年10月、p.1-29。
- 直江清隆「科学・技術論」小坂國継・本郷均編『概説 現代の哲学・思想』ミネルヴァ書房、2012年4月、p.316-336。
- 直江清隆「遺伝と環境」『シリーズ生命倫理学』第11巻、丸善出版、2013年1月、pp.46-64。
- 直江清隆 『価値と技術の現象学』(博士論文、東北大学大学院文学研究科)2013年3月

直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」、佐々木正人、村田純一、河野哲也編『知の生態学的転回 2 技術』、東京大学出版会、2013 年 7 月、pp. 259-285。  
直江清隆『教養としての応用倫理学』盛永審一郎、浅見昇吾編、丸善出版、2013 年 9 月、

荻原理「われわれがしていることにめまいをおぼえてはならない」、『思想』（岩波書店）1011、2008 年 7 月、pp. 80-96.

荻原理「学位論文におけるマルクスの方法の一側面」、『文化』（東北大学文学会）第 71 号、2008 年 10 月、掲載決定。

Satoshi Ogihara, 'The Epicurean Attitude toward Death', in *International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies -2008 Summer*, Korean Society of Greco-Roman Studies, 2008, pp. 47-58.

荻原理「社会的合理性、科学的合理性、古代哲学」『科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究、研究課題番号 18202001、平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金、基盤研究 (C)、研究成果報告書』、2009 年 3 月、pp. 48-60.

Satoshi Ogihara, 'The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the Philebus', in John Dillon, Luc Brisson (eds.), *Plato's Philebus: Selected Papers from the Eighth Symposium Platonicum*, Academia Verlag, 2010, pp. 215-220.

荻原理「ジョヴァンニ・フェラーリの『ポリテイア』解釈の一端」『理想』、686 号、24-35 頁、2011 年

荻原理「マイケル・スミスにしたがって——動機づけについての弱い内在主義の擁護——」『倫理学年報』、第 60 集、57～60 頁、2011 年

荻原理「中畑のマクダウェル理解について」『メトドス』、第 43 号、32～36 頁、2011 年

荻原理「プラトン『法律』第 10 卷 903a-905d の、神による魂の再配置の話について」『ギリシャ哲学セミナー論集』（インターネット版）、Vol. IX、36～53 頁、2012 年

Satoshi Ogihara, 'The Chice of Life in the Myth of Er', in *Plato: The Internet Journal of the International Plato Society*, Vol. 11, 2012 (no pagination)

荻原理「中畑の応答を受けて」『メトドス』、第 45 号、59～61 頁

原塑「脳神経倫理学の成立とその将来的課題」『創文』、第 505 号、創文社、10 頁～13 頁、2008 年

原塑「食品による〈社会〉の増強—オキシトシンと神経経済学」『科学』第 78 卷

第8号、860頁～864頁、2008年

Hara, S. Media Violence within the Framework of Biomedical Ethics: Why Hurley's Argument Fails. (K.Ishihara & S.Majima (eds.). *Applied Ethics: Perspectives from Asia and Beyond*. Center for Applied Ethics and Philosophy, Graduate School of Letters, Hokkaido University, 130-137. 2008.

原塑「メディア暴力と人間の自律性」(信原幸弘、原塑『脳神経倫理学の展望』勁草書房、149頁～172頁、2008年

永岑光恵、原塑、信原幸弘「振り込め詐欺への神経科学からのアプローチ」『社会技術研究論文集』6、177頁～186頁、2009年、

原塑、廣野喜幸「脳科学と社会：脳科学リテラシーの観点から」『脳と心はどこまで科学でわかるか』、南山堂、2009年

原塑「脳のモジュール化と神経科学によるイノベーション」『MORALIA』第16号、1頁～25頁、2009年

原塑、鈴木貴之、坂上雅道、横山輝雄、信原幸弘「大学における教養教育を通じた脳神経科学リテラシーの向上～ポスト・ノーマル・サイエンスとしての脳神経科学とその科学リテラシー教育～」『科学技術コミュニケーション』第7号、105頁～118頁、2010年

原塑、状態空間意味論：脳はどのように世界を表象するのか？』『思索』第42号、1頁～30頁、2010年

原塑「脳神経科学リテラシーに向けて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、1頁～17頁、2010年

原塑「知覚：環境変化の見落としについて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、21頁～36頁、2010年

原塑「信頼：社会性の神経経済学」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、125頁～142頁、2010年

原塑、永岑光恵「加齢：認知機能の変容」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、241頁～259頁、2010年

原塑「広告利用：脳トレ広告にみる脳神経科学言説の信頼性」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、261～286頁、2010年

原塑「意図的行為は理由の空間に含まれるのか？ 意図的行為における因果・表現・制御」、『共生の現代哲学：門脇俊介記念論集』、The University of Tokyo Center for Philosophy、11～32頁、2011年

原塑「刑法における嫌悪感情の役割と社会脳——リーガル・モラリズムと嫌悪感

情——」、芋坂直行編『社会脳シリーズ 第2巻 社会意識を育む——神経哲学と神経倫理学——』新曜社、183～217頁、2012年

## 1-2 著書・編著

野家啓一 韓国語訳『物語の哲学』、the Korean Publishing Marketing Research Institute, Seoul, 2009年7月

野家啓一 『科学技術と知の精神文化Ⅱ』（共著）、丸善プラネット、2011年3月

野家啓一 『数学者の哲学+哲学者の数学』（共著）、東京図書、2011年11月

座小田豊（共編著） 『今を生きる——東日本大震災から明日へ！第1巻 人間として』（尾崎彰宏と共編著、東北大学出版会）2012年3月

座小田豊（共著） 『ヘーゲル『精神現象学』入門』（加藤尚武編）講談社学術文庫、2012年5月

直江清隆・越智貢編『生きるとは』（『高校倫理からの哲学』第1巻）岩波書店、2012年7月

直江清隆・越智貢編『災害に向きあう』（『高校倫理からの哲学』別巻）岩波書店、2012年7月

直江清隆・越智貢編『正義とは』（『高校倫理からの哲学』第3巻）岩波書店、2012年8月

直江清隆・越智貢編『自由とは』（『高校倫理からの哲学』第4巻）岩波書店、2012年9月

直江清隆・越智貢編『知るとは』（『高校倫理からの哲学』第2巻）岩波書店、2012年10月

Richard Patterson ら編、Satoshi Ogihara ら著、*Presocratics and Plato, Parmenides* Publishing, 2012年

信原幸弘、原塑編著『脳神経倫理学の展望』、勁草書房、2008年

信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、2010年

伊藤周史、齊藤直樹、菅原潤編『21世紀の哲学史——明日をひらく知のイメージ』昭和堂、2011年

信太光郎『死すべきものの自由——ハイデガーの生命の思考』、東北大学出版会、

2011年12月

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 野家啓一「解説：＜出入自在＞の門」、大橋良介『日本的なもの、ヨーロッパ的なもの』講談社学術文庫、2009年5月
- 野家啓一「思い出の中公新書」、『中公新書の森』、中央公論新社、2009年5月
- 野家啓一「フロイトと科学哲学」、『フロイト全集』第12巻「月報11」、岩波書店、2009年6月
- 野家啓一「書物逍遥：『ポオ全集』のこと」、『ミネルヴァ通信』、ミネルヴァ書房、2009年6月
- 野家啓一「＜スロー・サイエンティスト＞としての寺田寅彦」、『寺田寅彦全集』第2巻「月報2」、岩波書店、2009年10月
- 野家啓一「『共通感覚』の変化と深化—大橋良介『感性の精神現象学』を読む」、『創文』第525号、創文社、2009年11月
- 野家啓一「爽やかに筋を通す人—大塚和夫さんを偲ぶ—」、『Field+』第3号、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010年1月
- 野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2010年1月
- 野家啓一「書評：合庭惇『ハイデガーとマクルーハン』」、『週刊読書人』第2825号、2010年2月
- 野家啓一「巻頭言：論理と感性のあいだ」、『Newsletter』第12号、慶応大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点、2010年6月
- 野家啓一「アヤちゃんの白い下穿き」、『車谷長吉全集』第1巻「月報」、新書館、2010年6月
- 野家啓一「人間的自由の行方—高山守『因果論の超克』に寄せて」、『UP』第452号、東京大学出版会、2010年6月
- 野家啓一「書評：中山元『フーコー生権力と統治性』／金森修『＜生政治＞の哲学』」、『読売新聞』2010年6月6日
- 野家啓一「インタビュー：文系・理系の垣根を越えて学び続けるために」、『まなびのめ』第9号、笹気出版印刷株式会社、2010年7月
- 野家啓一「書評：貫成人『歴史の哲学』勁草書房」、『週刊読書人』2010年12月
- 野家啓一・木村敏「対談：中動態という場をめぐる」、『空間と時間の病理』河合文化教育研究所、2011年1月
- 野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2011年1月
- 野家啓一「インタビュー：専門分化した知識の統合を」、『U7』第36巻、学士会、2011年2月
- 野家啓一「『3・11』とは何か：人々の意識を変える大きな転換点」、『西日本新聞』2011年4月12日
- 野家啓一「巻頭言：大震災のただ中で」、『日本学術会議第一部 Newsletter』第21期第7号、2011年6月
- 野家啓一・鈴木厚人「対談：震災復興と研究教育と社会貢献への思い」、『Scienceweb』第11号、2011年6月
- 野家啓一「書評：和合亮一『詩の礫』／『詩の黙礼』／『詩の邂逅』」、『読売新聞』

- 2011年7月3日
- 野家啓一・阿部恒之「特別対談：“東北地方太平洋沖地震”に直面して改めて言葉の力について考えた」、『考えるということ』第6号、東北大学文学部、2011年7月
- 野家啓一「大震災とともに考える」、『今こそ、学問の話をしよう』学校法人河合塾・教育研究部、2011年7月
- 野家啓一「大震災のなかの読書」、『図書』岩波書店、2011年8月号
- 野家啓一「大震災を語り継ぐ×柳田國男」、『読売新聞』2011年10月10日
- 野家啓一「大震災のなかの図書館」、『Library News』第15号、丸善、2011年10月
- 野家啓一「大震災以後の科学技術と人材育成」、『IDE大学セミナー／東北大学高等教育フォーラム報告書』、2011年11月
- 野家啓一「大学と科学者の社会的責任」、『現代思想』第39巻第18号、2011年12月
- 野家啓一「大震災と古本屋」、『文藝家協会ニュース』第719号、日本文藝家協会、2011年12月
- 野家啓一「書評：鈴木和成訳『ランボー全集／個人新訳』みすず書房」、『読売新聞』2011年12月4日
- 野家啓一「書評：西郷信綱著作集第6巻『詩の発生』平凡社」、『読売新聞』2011年12月18日
- 野家啓一「2011年の3冊」、『読売新聞』2011年12月25日
- 野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2012年1月
- 野家啓一「過去はどこへも行かず、＜物語り＞の中に在る」、『Dream Navi』四谷大塚出版、2012年1月
- 野家啓一「ユウレイ先生と原発事故」、『化学』第729号、化学同人、2012年2月
- 野家啓一「哲学リテラシーの必要性」、『中等教育資料』第909号、文部科学省教育課程課、2012年2月
- 野家啓一「半歩遅れの読書術（3回連載）」、『日経新聞』2012年3月4日、3月11日、3月18日
- 野家啓一「空想書店：東北の底力」、『読売新聞』2012年3月11日
- 野家啓一「インタビュー：震災を転機として」、河合塾（編）『ポスト3. 11 変わる学問』朝日新聞出版、2012年3月
- 野家啓一「東北の地から①～⑩」、『書齋の窓』巻頭言、有斐閣、2012年4月～2013年3月
- 野家啓一・鷲田清一ほか「座談会：ポスト3. 11の応用哲学」、戸田山和久ほか（編）『これが応用哲学だ』大隅書店、2012年5月
- 野家啓一「推薦文：いま必要な『哲学力』を養う」、直江清隆・越智貢（編）『高校倫理からの哲学』パンフレット、岩波書店、2012年5月
- 野家啓一「ゆかりの人々：私の著書3冊」、『KIBOKO』東北大学附属図書館報第37巻第2号、2012年6月
- 野家啓一「書評：ジェイムズ・フレミング『気象を操作したいと願った人間の歴史』」、『日経新聞』2012年7月29日
- 野家啓一「えらい人はくいる」のではなくくなる」のです、『DreamNaVi』第3

卷第十号、四谷大塚出版、2012年11月  
野家啓一「〈同化〉とく異化」の弁証法」、林永強・張政遠(編)『日本哲学の多様性』世界思想社、2012年12月  
野家啓一『現代社会学事典』(大澤真幸ほか1編)弘文堂、2012年12月、「ウィトゲンシュタイン」「クーン」「歴史」「歴史哲学」「歴史の分析哲学」の五項目  
野家啓一「〈自己〉とく他者」(木村敏と対談)、『〈自己〉とく他者』河合文化教育研究所、2013年1月  
野家啓一「書評 佐藤徹郎ほか(編)『形而上学の可能性を求めて』(工作舎)、『図書新聞』2013年3月9日

座小田豊 翻訳(単訳)：フィヒテ『道徳論の体系 1812年』フィヒテ全集第21巻(哲書房)2009年3月、181-334頁

座小田豊 書評：久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』(理想社)2011年11月27日、『図書新聞』2991号

座小田豊 翻訳(共訳)：ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の生成 第3巻』(法政大学出版局)2011年10月(小熊正久・後藤嘉也と共訳)全319頁

座小田豊 翻訳(共訳)：新装版 D・ヘンリッヒ『神の存在論的証明』(法政大学出版局)2012年7月

座小田豊 翻訳(共訳)新版 ヘーゲル『イェーナ体系構想』(加藤尚武監修)(法政大学出版局)2012年3月

座小田豊 辞典の項目：「主人と奴隷の弁証法」(『現代社会学事典』弘文堂)2012年11月 刊行予定

直江清隆 「書評 田口茂著『フッサールにおける〈原自我〉の問題』『読書人』2010.6.25号。

直江清隆 「書評 カッシーラー『象徴形式の形而上学』『読書人』2010.

直江清隆 翻訳『科学・技術・倫理百科事典』丸善、2011.

直江清隆、二瓶真理子「書評 デービス・ベアード著、松浦俊輔訳『もののかたちをした知識-実験機器の哲学』『科学哲学』43-2号、2010、p.111-115。

直江清隆 編訳『科学・技術・倫理百科事典』(共訳)丸善、2012.1

直江清隆 翻訳 アクセル・ホネット『再配分か承認か?』(共訳)法政大学出版局、2012年10月

直江清隆 報告「原発に対して倫理学は何を言えるのか」(福永真弓、寺本剛、本田康二郎と共著)『倫理学年報』第62集、68-77頁

直江清隆 項目翻訳『スクリプナー思想大事典』丸善出版（印刷中）  
直江清隆 書評「フォージ著『科学者の責任 哲学的探求』（佐藤透、渡邊嘉男訳）」  
（『週刊読書人』、2013年5月31日号）

荻原理 翻訳 ジョン・マクダウエル「徳と理性」、『思想』（岩波書店）1011、2008  
年7月、pp. 7-33.

荻原理 翻訳 ジョン・マクダウエル「何の神話が問題なのか」、『思想』（岩波書  
店）1011、2008年7月、pp. 60-79.

荻原理「プラトン 見つからなければ不正を犯してもいいか」、『人間会議』（宣伝  
会議）、2008年冬号、2008年12月、pp. 78-83.

荻原理「書評 J・マクダウエル著『心と世界』（『週刊読書人』2012年5月25  
日号）

原壘「テキストからの展望、ジェームズ『心理学原論』」、村田純一編『講座 哲学  
第5巻 心／脳の哲学』岩波書店、265頁～268頁、2008年

原壘「テキストからの展望、大森荘蔵『物と心』」、村田純一編『講座 哲学第5巻  
心／脳の哲学』岩波書店、270頁～273頁、2008年

原壘 「書評 河野哲也著、『暴走する脳科学——哲学・倫理学からの批判的検討』  
（光文社新書、2008年刊）」『科学哲学』44-2号、2011年、143～146頁

原壘 翻訳「社会参加教育」、「アシモフ」、「攻撃」、「モニタリングと監視」、科学・  
技術・倫理百科事典翻訳編集委員会編『科学・技術・倫理百科事典』丸善、  
2012年

原壘「脳神経科学リテラシー教育の実践報告」、日本科学哲学会ニューズレター、  
第49号、1～3頁、2013年

#### 1-4 口頭発表

野家啓一 提題発表「科学技術の転換点」、「学問・芸術と社会」講演と討論の会、  
学術文化同友会「アルスの会」／GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティア  
の新展開」、2009年8月22日、青葉記念会館

野家啓一 基調講演「学術情報と市民社会（公共圏）」、サイエンスアゴラ 2009  
シンポジウム「科学コミュニケーションと学術コミュニケーション」、2009  
年11月2日、日本科学未来館みらいCANホール

野家啓一 特別講演「知識と情報のあいだ」、平成21年度情報教育研究集会、

2009年11月14日、東北大学川内萩ホール

野家啓一 特別講演「〈場所〉と〈あいだ〉：知の統合への哲学的アプローチ」、  
第3回横幹連合コンファレンス、2009年12月4日、東北大学片平さくらホール

野家啓一 提題発表「コスモロジーの復権」、第20回コスモス・フォーラム「大  
気と人—海、大地との関わり—」、2009年12月13日、ベルサール飯田橋

野家啓一 提題発表「哲学とは何か—科学と哲学のあいだ—」、土井通子記念京都  
哲学基金主催シンポジウム「哲学とは何か」、2009年12月26日、京都ガーデン  
パレス

野家啓一 講演「物語り論（ナラトロジー）からの眺望」、立正大学「歴史・社会  
叙述とテキスト研究会」、2010年3月13日、立正大学人文科学研究所

野家啓一 講演「科学技術と社会技術」、平成22年度宮城県高等学校理科研究  
会総会、2010年5月7日、仙台市民会館小ホール

野家啓一 提題発表「文系大学院の現状と課題」、東北大学高等教育開発推進セン  
ター主催シンポジウム「大学教員養成と大学院教育の課題」、2010年6月30  
日、仙台国際センター

野家啓一 提題発表「覚醒倫理への道程—今村社会哲学と親鸞—」、無限洞主催シ  
ンポジウム「今村社会哲学と仏教—『親鸞と学的精神』をめぐって」、2010  
年7月8～9日、泉ヶ岳やまぼうし

野家啓一 提題発表「哲学的思考の特質—自然主義に抗して—」、科学研究費補助  
金研究会「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」、2010年8月26日、専修  
大学神田校舎

野家啓一 コメンテーター、東北中世史サマーシンポジウム「カミと王の呪縛—  
人々を統合するもの—」、2010年8月29日、仙台市戦災復興記念会館

野家啓一 提題発表「見るものと見られるもの—黒田哲学と大森哲学—」、哲学会  
シンポジウム「黒田哲学再考」、2010年10月31日、東京大学文学部

野家啓一 提題発表「物語る自己／物語られる自己」、河合臨床哲学シンポジウ  
ム「自己—語りとしじま」、2010年12月11日、東京大学鉄門記念講堂

野家啓一 講演「生命倫理の考え方」、2011年2月23日、宮城県がんセンター

野家啓一 サイエンスカフェ講師「“震災を忘れず、忘れられないために” 第1  
回哲学者に聞く」（ファシリテータ：長神風二）2011年7月27日

野家啓一 提題発表「緩和医療におけるEBMとNBM：科学哲学の視点から」、  
緩和医療学会シンポジウム「緩和ケアにおけるEBMの意義と限界」、2011年

- 7月29日、ロイトン札幌
- 野家啓一 招待講演「大震災と科学技術」、土木学会トークサロン、2011年9月12日、土木学会講堂
- 野家啓一 講演「大震災以後の科学技術と人材育成」、IDE大学セミナー／東北大学高等教育フォーラム、2011年11月18日、仙台ガーデンパレス
- 野家啓一 基調講演「現代を生きる柳田國男」、柳田國男五十年祭記念シンポジウム、2011年11月19日、東北大学
- 野家啓一 招待講演「科学哲学における解釈学的諸問題」、名古屋大学GCOEプログラム第13回国際研究集会「哲学的解釈学からテキスト解釈学へ」、2011年12月9日、名古屋大学
- 野家啓一 コメンテーター「他者の諸相、他性の諸相」、第11回河合臨床哲学シンポジウム、2011年12月11日、東京大学鉄門記念講堂
- 野家啓一 招待講演「未来世代への責任」、大学教育改革フォーラム in 東海、2012年3月3日、名古屋大学
- 野家啓一・川本隆史「対談：大震災以後の〈物語り〉と〈ケア〉」、国際シンポジウム「大震災と価値の創生」、2012年3月10日、東北大学
- 野家啓一 講演「科学論の現在—from science to trans-science—」、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（第7期）、2012年4月20日、伊藤国際学術研究センター
- 野家啓一 講演「歴史と記憶—大震災以後を生きる—」、桐光学園特別授業、2012年4月28日、桐光学園講堂
- 野家啓一 講演「科学哲学と科学コミュニケーション」、東京大学大学院教育学研究科、2012年5月25日、東京大学
- 野家啓一 提題発表「3. 1 1以後の科学技術と人間」、総合人間学会シンポジウム、2012年5月26日、日本大学文理学部
- 野家啓一 司会・コメンテーター、シンポジウム「ウィトゲンシュタインをめぐって」、第59回日本病跡学会総会、2012年6月23日、東京藝術大学
- 野家啓一 提題発表「3. 1 1以後の科学技術と倫理」、東北社会学会、2012年7月15日、山形大学
- 野家啓一 提題発表「大震災と知の統合」、日本学術会議「工学基盤における知の統合」シンポジウム、2012年7月27日、東京大学
- 野家啓一 提題発表「専門家と非専門家のあいだ」、科学研究費補助金研究会「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」、2012年8月21日、大阪大学

野家啓一 提題発表「大震災以後の科学技術と倫理 (Ver.2)」、学術文化同友会「ア  
ルスの会」／GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、2012年8  
月24日、東北大学

Keiichi Noe, “The Great Earthquake Disaster and Japanese View of Nature”,  
International Conference: Japanese Philosophy in the East Asian Perspective,  
Institute for the Advanced Studies in Humanities and Social Sciences, Taiwan  
National University, 1 Sept. 2012.

野家啓一 招待講演「物語り行為と自己制作」、経営革新研究会、2012年9月14日、  
日本生産性本部経営アカデミー

野家啓一「物語り行為による自己制作」東北哲学会第 62 回大会、2012 年 10 月 21  
日、東北大学

野家啓一「技術と制度的身体」日本現象学会第 34 回大会シンポジウム「技術の現  
象学」、2012 年 11 月 17 日、東北大学

野家啓一「3.11以降の科学技術と社会」北日本哲学会、2013 年 1 月 13 日、北海道  
大学

野家啓一 シンポジウム司会 The 5th GCOE International Symposium “Weaving  
Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2013年3月4日  
-6日。

座小田豊 第 2 回日中哲学フォーラム(2009 年 4 月 24-26 日)における第 1 分科会  
「環境、生命、共生に関する哲学の新展開」第 1 日目の総合司会 担当

座小田豊 司会：シンポジウム「ヘーゲルとドイツ観念論」（日本ヘーゲル学会大  
会、2010 年 6 月 20 日 法政大学市ヶ谷キャンパス）

座小田豊 第 42 回岩手哲学会大会における公開講演：「ヘーゲル哲学における神  
の思想」（2010 年 7 月 17 日、岩手大学にて）

座小田豊 パネラー：大学出版部研修会シンポジウム「新たな成長モデルを求め  
て」、2011 年 9 月 29 日 日本出版クラブ会館にて）

直江清隆 シンポジウム提題「高橋里美の包弁証法」 日本ヘーゲル学会、東北  
大学、2009 年 6 月 14 日。

直江清隆 ワークショップ提題「技術論の新たな構築に向けて」第 8 回日本科学  
技術社会論学会、早稲田大学、2009 年 11 月 15 日。

直江清隆 ワークショップ提題「技術的媒介の哲学に向けて」UTCP 先端教育プロ

- グラム「技術哲学セミナー 技術と日本哲学」 東京大学、2009年12月19日。
- 直江清隆 シンポジウム司会 The 2nd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2010年2月17日-18日。
- Kiyotaka Naoe ワークショップ提題 “Technological mediation and the Japanese philosophy of technology” International Workshop in Komaba: The present and the future of the philosophy of technology: from a Japanese perspective, The University of Tokyo, 2010. 3. 9.
- 直江清隆 ワークショップ提題「哲学の中の技術の知識・認識論」 第2回応用哲学会、北海道大学、2010年4月24日。
- 直江清隆 ワークショップ司会・基調提題「高等学校の「哲学・倫理」教育で何をどのように教えるか—大学での哲学教育・教養教育と高校教育との連携に向けて」第69回日本哲学会大会 2010年5月16日 大分大学。
- 直江清隆 シンポジウムコメンテーター『高レベル放射性廃棄物の処分問題解決へ向けて』日本学術会議公開シンポジウム、日本学術会議講堂、2010年6月4日。
- 直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の設計と工学知」第9回日本科学技術社会論学会、東京大学、2010年8月29日。
- 直江清隆 シンポジウム司会「K・レーヴィットの再評価：人間・歴史・自然」東北哲学会、東北大学、2010年10月24日
- 直江清隆 シンポジウム提題「市民教育の基礎としての哲学教育に向けて」日本学術会議公開シンポジウム『哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か』、日本学術会議講堂、2010年11月28日
- 直江清隆 シンポジウム司会「K・レーヴィットの再評価：人間・歴史・自然」東北哲学会、東北大学、2011年10月24日
- 直江清隆 講演「技術者倫理から技術の倫理へ」中部技術士会、2011年1月16日。
- 直江清隆 シンポジウム司会 The 3rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2011年2月17日-18日。
- 直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論（2）」 第3回応用哲学会、千葉大学、2011年4月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「原発リスクについてどう論じるか」応用物理学会  
東北支部、アエル、2011年9月23日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論」応用哲学会臨時大会、  
京都大学、2011年9月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「倫理学（の研究者）は震災・原発事故にどう向き  
合えるのか、何ができ／できないのか」日本倫理学会、富山大学、2011年9  
月30日。

直江清隆・二瓶真理子 ワークショップ提題「工学的判断」と専門知」第10回  
日本科学技術社会論学会、京都大学、2011年12月3日。

直江清隆 提題発表 設計の哲学 生態学的現象学の技術哲学的展開研究会、立  
正大学、2011.12.26

直江清隆 シンポジウム司会 The 4th GCOE International Symposium “Weaving  
Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2012年2月17  
日-18日。

Kiyotaka Naoe, Philosophy of Technology in Japan: Historical Perspectives,  
Workshop on Philosophy of Technology, Tohoku University, 2012.2.18.

直江清隆 シンポジウム提題、司会「原発事故と価値の転換」国際シンポジウ  
ム：大震災と価値の創生（International Conference: Disaster and the  
Creation of Value System）東北大学、2012年3月9日

直江清隆 ワークショップ提題「社会的意味形成と人工物機能」応用哲学会第  
4回大会、千葉大学、2012年4月22日。

直江清隆 提題発表 「原発事故と科学技術倫理」アルスの会・アルスタウン  
ミーティング（東北大学 GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」  
共催）、東北大学、2012年8月24日

直江清隆 提題発表「設計と生態学的心理学」生態学的現象学の技術哲学的展開  
研究会、中京大学、2012.10.6

直江清隆 司会・趣旨説明 主題別討議「原発事故について倫理学は何が言える  
か」、第63回日本倫理学会大会、日本女子大学、2012年10月14日。

直江清隆 シンポジウム司会「技術の現象学」第34回日本現象学会大会、東北大  
学、2012年11月15日

直江清隆 シンポジウム提題 「技術について哲学は何が語れるか」日本現象  
学・社会科学会、神戸大学、2012年12月1日

直江清隆 シンポジウム司会 The 5th GCOE International Symposium “Weaving

Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2013年3月4日-6日。

直江清隆 ワークショップ司会 「リスクマネジメントの技術論(2)～リスクマネジメントにおける技術倫理の問題を提示する」 応用哲学会、南山大学、2013年4月21日

直江清隆 ワークショップ提題 『自己を超えて』をめぐって」 ワークショップ「自己を超えて 哲学のサブジェクト転換」、日本哲学会第72回大会、お茶の水女子大学、2013年5月12日

Kiyotaka Naoe, Internal Logic of Organizations and the Fukushima Nuclear Accident. 18th International Conference of the Society for Philosophy and Technology, July 5, 2013, Technical University of Lisbon

直江清隆 シンポジウム提題 「思想史における技術」第38回社会思想史学会大会、2013年10月26日(土)、関西学院大学

Kiyotaka Naoe, Human-Centered Design and psychological environment, 8th International Conference on Applied Ethics: 'Applied Ethics in an Era of Emerging Technologies,' November 1, 2013, Hokkaido University

Kiyotaka Naoe, Probleme bezüglich der Wissenschaft, Technik und der Verantwortung, "Bildung durch Integration von Technik und Gesellschaft", Deutsch-Japanische Gesellschaft für integrative Wissenschaft, 7. November, 2013, Technische Universität München

Satoshi Ogihara, Greek Civilization, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, Epicurus on Life and Death, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, John McDowell on Ethics, Taiwan University, Taipei, April 24, 2009.

Satoshi Ogihara, The Brothers' Challenge to Socrates in Book 2 of Plato's *Republic*, Chinese Culture University, Taipei, April 27, 2009.

Satoshi Ogihara, False Pleasures in the *Philebus*, in Presocratics and Plato: Festschrift Symposium in Honor of Charles H. Kahn, Delphi, June 5, 2009.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er, 科研基盤(B)「古代ギリシア正義論の欧文総合研究—プラトン『国家』とその伝統—」研究集会、静雲荘、箱根、2010年7月10日

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er in Plato's *Republic*, The Dublin

Centre for the Study of Platonic Tradition, Trinity College Dublin, February 12, 2010.  
Satoshi Ogihara, False Pleasures, B Club, the Faculty of Classics, the University of  
Cambridge, March 8, 2010.

Satoshi Ogihara, False Pleasures, Graduate Seminar, the Faculty of Classics, the  
University of Exeter, March 23, 2010.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er, IX Symposium Platonicum, Keio  
University, August 6, 2010.

荻原理 「マクダウエルの自然主義批判」、科研基盤B「哲学的思考の特質と、哲  
学教育のあり方」研究集会、2011年3月2日。

荻原理 『法律』第10巻903a-905dの、神による魂の再配置の話について」第  
15回ギリシャ哲学セミナー、専修大学、2011年9月11日。

荻原理 司会(共同) シンポジウム 共通課題「幸福」、第62回日本倫理学会大会、  
2011年10月2日。

Satoshi Ogihara, 'How free Magnesians are to speak and think about the gods –a remark  
on the city of Plato's *Laws*', in the symposium 'Freedom and the State: Plato and the  
Classical Tradition', Oxford University, August 7, 2012.

Satoshi Ogihara, 特定質問、Simon Blackburn, 'One Cheer for Realism, One Cheer for  
Rationalism' に対して。The Seventh International Conference on Applied Ethics,  
Hokkaido University, October 26, 2012.

荻原理 シンポジウム「中世におけるプラトニズム——トマス・アクィナスおよ  
びイスラーム——」、提題「トマスの存在理解をめぐる上枝氏の提題に寄せて」  
2012年11月11日

荻原理 特定質問、中畑正志氏著書書評会、慶應義塾、2013年2月9日

荻原理 報告、『ポリテイア』最新論文集の検討会、慶應義塾、2013年7月6日

Hara, S., Yamamoto, M. 2009. The Varieties of Self. Joint Tamagawa University/Caltech  
Lecture-course on EMOTION. California Institute of Technology. February 18 2009.

原塑 神経科学リテラシーとは何か 目的と概要、シンポジウム 神経科学リテ  
ラシー、東京大学、2009年5月23日

原塑 「自然化されたメタ倫理としての脳神経倫理学」 ワークショップ「ニュー  
ーロサイエンスと規範倫理学」、哲学会第41回研究大会、東京大学、2009年  
10月31日

原塑 「『存在と時間』と現象学の自然化」 UTCP シンポジウム 「『存在と時間』

- 再考：門脇俊介の哲学から出発して」、東京大学、2010年7月30日
- 原塑 パネルディスカッション「科学技術・ガバナンス・倫理」、科学技術社会論学会シンポジウム「科学技術・ガバナンス・倫理」、京都大学、2011年11月27日
- 原塑 「自然主義的現象学者としてのハイデガー」、UTCP ワークショップ「現象学の自然化」、東京大学、2011年11月25日
- 原塑 「刑法における嫌悪感の役割と神経科学——リーガル・モラリズムと嫌悪感——」刑法読書会 2012年2月例会、立命館大学、2012年2月4日
- 原塑 「脳神経科学リテラシー育成のためのテキストと授業実践の効果測定」、第18回大学研究教育フォーラム、京都大学、2012年3月16日
- 原塑 「トランス・サイエンスという概念と東日本大震災」、2012年度科学技術社会論学会シンポジウム「東日本大震災をめぐるこれまでとこれから～問題の現在と将来、そのエビデンス～」、東京工業大学、2012年6月16日
- 原塑 「刑法における嫌悪感情の役割と神経科学」、第9回認知哲学研究会、東京大学、2012年7月28日
- 原塑 「『存在と時間』のプラグマティズム的解釈から自然主義的解釈へ」、研究会「ハイデガーと自然主義1」、東北大学、2012年9月17日
- 原塑 「普通の人々の良識ある判断：ヌスバウムにおける感情と刑法」、北日本哲学会、北海道大学、2013年1月13日
- 原塑 招待講演 「刑法と感情—感情に基づく法的判断の健全性—」第21回感情心理学学会、東北大学、2013年5月11日
- 原塑 「感情に基づく法的判断の妥当性—罪刑法定主義と裁判員制度—」刑法読書会6月例会（第526回）、立命館大学、2013年6月1日
- 原塑 「ギャラガー&ザハヴィ『現象学的な心』、心の哲学から」、第2回自然主義研究会、一橋大学、2013年6月29日
- 原塑 「トランスサイエンスとは何か～ポスト 3.11 の科学コミュニケーション」、科学コミュニケーション研究会関東支部勉強会 2013年7月23日
- 信太光郎 「自著『死すべきものの自由—ハイデガーの生命の思考』について」、「池田喬『存在と行為』に対するコメント」、研究会「ハイデガーと自然主義1」、東北大学、2012年9月17日
- 信太光郎 「齋藤元紀『存在の解釈学—ハイデガー『存在と時間』の構造・転回・反復』に対する書評」、研究会「ハイデガーと自然主義2」、東北大学、2013

年5月26日

## 2 教員の受賞歴 (2009～2013 年度)

なし

## IV 教員による競争的資金獲得 (2009～2013 年度)

### (1) 科学研究費補助金

野家啓一 2008年度～2012年度 グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」事業推進担当者(教育・広報担当)

野家啓一 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究代表者

野家啓一 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」研究分担者

野家啓一 2012～2014年度科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

野家啓一 2012～2013年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成(第3部)」研究代表者

座小田豊 2008～2010年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」研究分担者

座小田豊 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「ドイツ観念論における神概念の展相と主観性概念の現代的意義の研究」研究代表者

座小田豊 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

座小田豊 2011～2014年度科学研究費補助金基盤研究(A)「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」研究分担者

座小田豊 2012～2014年度科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究代表者

直江清隆 2007～2010年度科学研究費補助金基盤研究(A)「ドイツ応用倫理学の総合研究」研究分担者

直江清隆 2007～2009年度科学研究費補助金基盤研究(C)「メディア哲学の構築」研究分担者

- 直江清隆 2008～2010年度科学研究費補助金基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築」研究分担者
- 直江清隆 2009～2011年度科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 直江清隆 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学における機能と規範に関する研究」研究代表者
- 直江清隆 2011～2013年度科学研究費補助金基盤研究(B)「初等・中等教育における哲学教育推進のための理論的・実践的研究」研究分担者
- 直江清隆 2012～2016年度科学研究費補助金基盤研究(A)「「知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復のための生態学的現象学」研究分担者
- 直江清隆 2012～2014年度科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」研究分担者
- 直江清隆 2013-2015年度 科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学のナラティブ的展開」研究代表者
- 直江清隆 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究 (C)「根ざした技術の現象学的研究：技術の記述的探求と批判的視点の確立」研究分担者
- 荻原理 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 荻原理 2010～2013年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」研究代表者
- 荻原理 2012～2014年度科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」研究分担者
- 原塑 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 原塑 2011～2013年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法学的意義」研究代表者
- 原塑 2011～2013年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法学的意義」研究代表者
- 原塑 2011～2016年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者
- 原塑 2012～2014年度科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為

の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」研究分担者

## (2) その他

野家啓一 2007年～現在 科学技術振興機構・社会技術研究開発センター研究会

「科学技術と知の精神文化—新しい科学技術文明の構築に向けて—」研究分担者

座小田豊 2012年度 東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」運営委員

座小田豊 2012～2013年度 同プログラム 入試および学位授与委員

直江清隆 2008～2011年度 東北大学 GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」（リーダー 井上邦雄理学研究科教授）拠点担当者

原塑 玉川大学グローバルCOEプログラム、平成21年度～「社会における心の創成」（リーダー 坂上雅道）、研究協力者。

原塑 独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、平成18年度～21年度「文理横断的教科書を活用した神経科学リテラシーの向上」、研究協力者。

原塑 2011年度東北大学防災科学研究拠点メンバー

## V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

野家啓一 国立療養所西多賀病院倫理委員会委員（2001年～現在）

野家啓一 東北薬科大学倫理委員会委員（2003年～現在）

野家啓一 河北新報紙面審議会委員（2004～2007年）

野家啓一 日本学術会議第20期、21期、22期会員（2005年～現在）

野家啓一 日本学術会議哲学委員会委員長（2005年～現在）

野家啓一 日本学術会議東北地区会議代表幹事（2005年～2008年）

野家啓一 宮城県図書館協議会委員（2005年～2011年）

野家啓一 裁判官指名諮問委員会仙台地域委員会委員（2006年～現在）

野家啓一 新潟大学人文社会・教育科学系懇話会委員（2007年～現在）

野家啓一 日本学術会議「基礎科学の長期展望分科会」委員（2008～2010年）

野家啓一 日本学術会議「工学基盤における知の統合分科会」委員（2011年～現在）

野家啓一 東北学院大学外部評価委員会委員（2010年度～現在）

野家啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2007年6月

野家啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2008年7月

野家啓一 第3回「科学と社会」意見交換・交流会講師、NPO法人 natural science、  
川内萩ホール、2009年6月6日

野家啓一 大学図書館職員長期研修講師、筑波大学メディアセンター、2009年  
7月9日

野家啓一 川内萩ホールクラシックコレクション Vol.1「デュオ・リサイタル」プ  
レトーク、2009年7月17日

野家啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2009年7月22日

野家啓一 農学部・農学研究科「長谷部ゼミ」講師、2011年7月13日

野家啓一 「コスモス国際賞」（国際花と緑の博覧会記念協会）選考専門委員会委  
員、2010年～現在

野家啓一 「京都賞／思想・芸術部門」（稲盛財団）専門委員会委員長・審査委員  
会委員、2011年11月～現在

野家啓一 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（第7期）講師、  
2012年4月20日

野家啓一 桐光学園特別授業講師、2012年4月28日

野家啓一 人間文化研究機構評議員・機構長選考委員会委員、2012年4月～現在

野家啓一 文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援補助金事業」委員会委員、  
2012年6月～現在

野家啓一 日本学術振興会特別研究員等審査委員会専門委員・国際事業委員会書  
面審査委員、2012年8月～現在

座小田豊 東北大学出版会 総務担当理事（1999年～）兼 副理事長（2012年～）

座小田豊 東北大学教育研究振興財団 事業委員会委員（2004年から2009年）

座小田豊 有備館講座第8期 第5回講師「神と人間の同一性と差異について」2009  
年9月19日

座小田豊 東北工業大学書面評価委員（2010年度）

座小田豊 弘前大学大学院人文社会科学研究所外部評価委員会委員（2011年）

座小田豊 東北大学生協 理事（2012年5月～）

座小田豊 日本ヘーゲル学会 『精神現象学』セミナー 講師（2013年3月24日）

座小田豊 大学出版部協会 50周年記念連続シンポジウム  
新しい社会を拓く大学の力 【第3回】防災と復興の知—3・11以後を生きる：講  
師（2013年9月28日 予定）

- 直江清隆 「脳神経倫理学概論」東北大学 GCOE プログラム「脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点」東北大学星陵キャンパス 2008 年 2 月 19 日
- 直江清隆 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 (東北大学 21 世紀 COE プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点) 第 12 回「研究と臨床の倫理」2008 年 6 月 26 日
- 直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第 12 回「研究と臨床の倫理」2009 年 6 月 18 日
- 直江清隆 「もう一つの技術者倫理：教科書的記述から見えないこと」(社) 日本技術士 東北支部 H21 年度 第 2 回技術情報部会研修会 平成 21 年 7 月 24 日
- 直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第 12 回「研究と臨床の倫理」2010 年 6 月 24 日
- 直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第 7 回「研究と臨床の倫理」2011 年 5 月 25 日
- 直江清隆 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「私たちは知を信じることができるのか」 2011 年 7 月 27 日
- 直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第 7 回「研究と臨床の倫理」2012 年 5 月 24 日
- 直江清隆 仙台第一高等学校 S S H 東北大学公開講座 「身体をめぐる二つの語り方—科学的語り方と哲学的語り方—」2012 年 7 月 14 日
- 直江清隆 東京都高等学校公民科「倫理」・「現代社会」研究会 第三回研究例会「原発事故と技術の哲学」 2013 年 2 月 4 日
- 直江清隆 「『高校倫理からの哲学』とその先」、「シンポジウム 中等教育でいかに哲学・倫理教育を進めるか」 2013 年 2 月 9 日
- 直江清隆 広島大学附属中高等学校 S S H 「科学と倫理」プログラム「科学的な決め方に倫理はどう関係するのだろうか」 2013 年 11 月 20 日
- 荻原理 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「哲学者ソクラテス」 2009 年 7 月 31 日
- 荻原理 朝日カルチャーセンター講師、「ギリシャ政治哲学研究——プラトン『法律』篇をめぐる——」全 6 回のうち 2 回を担当 (加藤信朗、土橋茂樹とともに) 2009 年 8 月 8 日、22 日

萩原理 朝日カルチャーセンター講師、「プラトン哲学の総括的研究」全5回のうち  
1回を担当、1回はゲスト講師として参加（加藤信朗、栗原裕次、納富信留と  
ともに）2012年9月8日、22日

原塑 みやぎ県民大学の講師、「自由意志は幻想か？ 脳神経科学からの挑戦」2011  
年9月15日

原塑 気仙沼地域教育支援プロジェクト（主催：浅沼宏、東北大学大学院環境科学  
研究科）による気仙沼高校生徒への体験授業、体験ゼミの講師 2011年11月  
26日

原塑 東北大学脳科学グローバルCOE・倫理教育セミナー講師 2012年3月23日

原塑 アカデミーヒルズ、六本木ライブラリー講師 2013年7月22日

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013年度）

野家啓一 日本哲学会委員（1991～2011）

同評議員・理事（2011～現在）

野家啓一 日本科学哲学会理事、評議員、編集委員（1988～現在）

同理事（1995～現在）

野家啓一 科学基礎論学会理事（1987～現在）

同評議員（1990～現在）

同理事（1996～2011）

野家啓一 日本現象学会委員（1986～現在）

野家啓一 日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事（1990～現在）

野家啓一 東北哲学会委員、編集委員（1981～現在）

野家啓一 Husserl Studies, Editorial Board（1997～現在）

野家啓一 総合人間学会理事（2006～2011）

同顧問（2011～現在）

野家啓一 西田哲学会理事（2004～現在）

野家啓一 日本生命倫理学会評議員（2012～現在）

座小田豊 東北哲学会委員、編集委員（1999年～現在）

同会長（2008年～2013年）

座小田豊 日本哲学会 委員（1999年～2011年）、65回大会実行委員長（2006年）

座小田豊 日本哲学会 編集委員・編集委員長（2007年～2009年）、

国際交流WG実行委員長(2010年～2012)

評議員(2011年～現在)

理事(2011年～2013年)

座小田豊 日本ヘーゲル学会 論文審査委員(2007年～2010年)

監事(2009年～2011年)

理事(2013年～2015年)

論文審査委員長(2013年～2015年)

直江清隆 日本科学哲学会編集委員(2006年～現在)

直江清隆 東北哲学会委員(2006年～現在)

直江清隆 日本現象学社会科学会委員(2008年～2011年)

直江清隆 日本哲学会編集委員(2009年～2012年)

日本哲学会哲学教育ワーキンググループ委員(2010年～現在)

直江清隆 応用哲学会理事(2012年～現在)

直江清隆 日本哲学会理事(2013年～現在)

日本哲学会哲学教育ワーキンググループ座長(2013年～現在)

直江清隆 日本倫理学会編集委員・和辻賞選考委員(2013年～現在)

荻原理 東北哲学会委員(2003年～現在)

荻原理 中世哲学会推薦評議員(2008年～現在)

荻原理 ギリシャ哲学セミナー運営委員(2009年9月～現在)

荻原理 日本倫理学会編集委員・和辻賞選考委員(2012年～現在)

原塑 東北哲学会 委員(2009年～現在)

原塑 日本科学哲学会編集委員(2012年～現在)

## Ⅶ 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当(2013年度)

#### 1 大学院授業担当

教授 座小田豊

哲学研究演習Ⅰ(全教員で共同担当)

哲学研究演習Ⅱ(全教員で共同担当)

近現代哲学研究演習Ⅰ

近現代哲学研究演習Ⅱ

哲学課題研究

哲学課題研究

准教授 直江清隆

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

哲学特論Ⅰ

生命環境倫理学研究演習 2学期

近現代哲学研究演習 4単位

東北大学大学院生命科学研究科 生命科学特論 2回分担当

東北大学大学院薬学研究科 応用医療薬学特論 1回分担当

哲学課題研究

准教授 荻原理

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

哲学研究演習（哲学・倫理学専攻の全教員で、前期・後期）

古代中世哲学研究演習Ⅰ（前期・後期）

哲学特論（後期）

哲学課題研究

准教授 原塑

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学特論Ⅰ

哲学特論Ⅱ

哲学課題研究

## 2 学部授業担当

教授 座小田豊

哲学思想概論（近代哲学の生成と展開）3-4セメ

哲学演習 5-6セメ

実践教育演習・社会科 8セメ 3回

准教授 直江清隆

現代哲学概論（教員3名で担当）3セメ

現代哲学概論 3セメ

哲学思想演習 5-6セメ

生命環境倫理学各論 5セメ

生命環境倫理学演習 6セメ

東北大学薬学部 病院薬学概論2 1回分担当

准教授 荻原理

哲学思想概論（古代哲学史） 3-4セメ

哲学思想各論 6セメ

哲学思想演習 5-6セメ

准教授 原塑

現代哲学概論 3-4セメ

哲学思想演習 5-6セメ

### 3 共通科目・全学科目授業担当

教授 座小田豊

現代学問論（全学教育科目）1セメ、5回担当

准教授 直江清隆

科学と情報（全学教育科目） 2セメ

人文社会総論 1セメ

英語原書講読入門 2セメ

准教授 荻原理

ギリシア語／ラテン語 3-4セメ

基礎ゼミ 1セメ

### (2) 他大学への出講（2009～2013年度）

准教授 直江清隆

京都大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師 2013年度

宮城学院女子大学非常勤講師 2006～2013年度

准教授 荻原理

東北学院大学非常勤講師 2010年度～現在

准教授 原塑

玉川大学脳科学研究所特別研究員 2009年～現在

日本女子大学大学院、「心理学特別研究Ⅰ講義、認知神経科学Ⅱ」、2009年度

東京大学教養学部後期課程、「ドイツ思想テキスト分析Ⅰ」、2009年度

日本女子大学大学院、「心理学特別研究 I 講義、認知神経科学 2」、2010 年度  
助教 伊藤周史（2010～2012 年度）

尚絅学院大学非常勤講師、「哲学」、2010 年度

東北文化学園大学非常勤講師、「現代思想」、2011 年度～2012 年度

仙台白百合女子大学非常勤講師、「生命倫理」、2012 年度

助教 信太光郎（2013 年度）

仙台白百合女子大学非常勤講師、「哲学」、「人間と文化」2011 年度～現在

宮城大学非常勤講師、「哲学」、2013 年度～現在